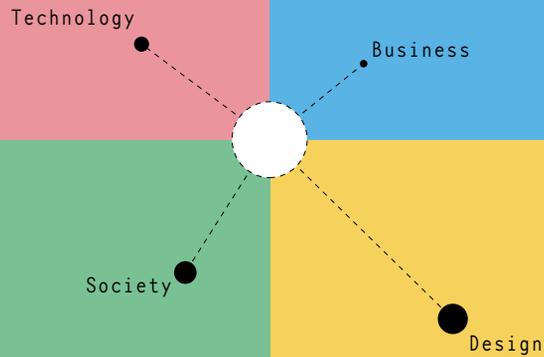


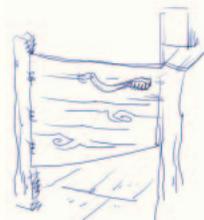
猪股裕一

いのまた・ゆういち: 多摩美術大学教授。1948年東京生まれ。団塊世代の典型。画材小売り、デザイナーのための加工サービス、初めての出力ショップを開き、McN創刊とあわただしく生きたのは性分。今こそ、整理された情報デザインが必要と信じるゆえ、いわゆるデザイナーではないのにデザインを教える。

www.tamabi.ac.jp/design/inomata@tamabi.ac.jp



不便さの楽しみを味わう



筆者は無類の大工道具好きでもある。もちろん道具を使って何かを作るのもだ。つまり日曜大工マニアだ。しょっちゅうアメリカから通販で道具を取り寄せたりもする。いちばん最近ではスカンジナビア製の作業台まで取り寄せてしまった。なぜはまったかという、日本ではプロとDIY (Do IT Yourself) は境目があり、DIY用の道具は何かチャチであり行き届かない。プロ用は道具自体を知ること難しく危険であったり、習得も難しかったりする。それがアメリカのその世界を覗くとまったく違う。自分の家は自分で作れるようになっていく国だと思う。最低限のスキルがあれば安全で論理的に造作できるような道具がいっぱいある。それらの種類は日本の2倍以上あると思う。ずっとはまってる道具にルーター(ほんとはラウターと呼ぶ)がある。先端がドリルのように回転し、刃先の種類が豊富で、本体を左右に移動することで溝を掘ったり、断面をさまざまなシェイプに仕上げたりできる。興味深いのは、特にアールのある曲面を削り出すときだが、削っていくとそこに想像もしないような木目が表れる。作業をすると木屑が飛び散り、木の匂いも飛び散る。凄くアナログな実存感を堪能できる。

最近、我が家の入り口の門扉を作ることになった。実は仮設で使いにくいものを付けておいたのだが家族からの評判が悪く、どうにかしなければならぬ。鉄製の溶接で仕上げようか、木肌を生かしたものにしようか考えた末に、オール木肌のむく材を張り合わせて仕上げた。高価なものではなく屋外用に防腐加工されたシダー系の洋材だ。ルーターを使って組み上げ、表面を磨いてみた。実に美しい自然の木目が現れる。そこで、あらかじめ手に入れておいた既製のドアの取っ手を家族に見せてこれを付けようと思ってるって説明したら、これが大反対。確かに似合わない。既製品のドアにはとてもよく似合う既製品のためのデザインだった。考えたあげく、春に剪定したおよそす汚れた枝を庭の隅に見つけた。適当な長さに切り、ヤスリで磨いてみると、これがいい風合いな

のだ。もっと丹念に磨いてみると、素晴らしい自然の造形がそこに隠れていた。両端もきれいに磨くと、くつきりと年輪が出てくる。とても説得力をもった存在感のある形だ。普段の仕事はデザインの教師をしているのだが、そのまだ途中段階の磨かれた枝を学校に持って行き、学校には木工室があるので既製の取っ手を加工してその枝を取り付ける算段をした。デジタルがどうのとか、インターフェイスがどうのとか、ユーザーへの製品の5W1Hとかを論じている中に、実は今自宅でこんなプロジェクトをしているんだと、その枝のできかけを見せてしまった。その瞬間は文章では再現しきれないが、存在感は圧倒的だった。小さな木片がみんなにこんな波紋を起こすとは思ってもみなかった。ある先生は「これはおみごと、素晴らしい」と言って僕もこんなものをと小箱を取り出し、なんの意味もなく作ったと言って木のブロックのさまざまな造形作品を見せてくれる。自己満足なのかもしれない。だがそんなものがコミュニケーションを生み、和ができた。

ふだん我々はコンピュータという便利で高速演算処理してくれる虚像の世界にどっぷりはまっている。それはそれでしかたがない。しかたがないというも残念だが、便利な世界を覗いたからこそ、便利ではないけれど味や風合いを感じる世界が見える。このごろよく感じるのはどこまで便利さを追求すれば、自分もふくめて気が済むのかということだ。たぶん「便利」から卒業でき、「不便さの楽しみを味わう」心の余裕を見つけるのが大事なような気がする。そこからいいデザインや思いやりのあるデザインができるように思う。最新技術を使った便利さは自分に適切な感性なのか？ その便利はそれを勤める他者への思いやりに添っているのか？ 技術が人のそれぞれの速さを翻弄しているような気がする。ずんと冷静になってみよう。

そんなことを思いながら枝の取っ手つき扉はできあがった。

Illustration: Harada Kaori

[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp